

心理学I(2) 中村 奈良江/田原 直美	履修年次	クラス	単位	学期
	1-4		2	前期
備考：				

【講義の概要】

【授業の到達目標及びテーマ】

本講義では、心理学の基本的な知識を獲得する事を目標としている。

心理学Iのテーマは、「どうして錯視がおこるのだろうか?」「効率的な記憶術はあるのだろうか?」といった外界の情報の獲得過程や、それらの記憶過程に関する事である。

【授業の概要】

各授業の中では、それぞれのテーマについて概説するとともに簡単な実験や調査を入れながら、心理学の知見を確認する。

【準備学習等についての具体的な指示】

初回到配布する詳細なシラバスに指定している教科書の部分をあらかじめ読んでおく事。

【各回ごとの授業内容】()内はキーワード

【第1回】<物理的尺度と心理的尺度>(知覚の仕組, 遠近法, 錯視図形, 知覚の恒常性)

【第2回】<知覚における意味の獲得>(多義図形, 主観的輪郭線, 図と地, 文脈効果, 眼球運動, ストループ効果, Top-down処理, Bottom-up処理)

【第3回】<知覚の生理的背景>(自動運動, 誘導運動, 側抑制, 立体視, 色, 静止網膜像)

【第4回】<情報の入力時の理論>(パターン認知, 注意のシステム)

【第5回】知覚領域テスト <記憶のモデル>(記憶術, 記憶の情報処理モデル, 感覚記憶, 短期記憶, 長期記憶, 系列位置曲線, 記憶の処理水準説)

【第6回】<記憶の量的分類と機能的分類>(作業記憶, 意味記憶, エピソード記憶)

【第7回】<忘却過程の理論>(記憶痕跡消衰説, 検索失敗説, 干渉, 記憶の障害)<知識の構造>(意味のネットワーク, プライミング効果, 意味の拡散モデル, スキーマ, スクリプト, フレーム, 概念図)

【第8回】 記憶領域テスト <目撃者の記憶>(事後情報効果, 語法効果, 凶器注目効果)

【第9回】<学習1>(古典的条件付けとオペラント条件付け)

【第10回】<学習2>(欲求と動機づけ, 要求水準, 観察学習)

【第11回】<学習3>(ワークモチベーション やる気いっぱい働くには)

【第12回】<脳の機能1>(右脳・左脳の違い, 機能局在説, 全体説)

【第13回】<脳の機能2>(脳の障害と言語機能, 日本人の感覚と脳の機能)

【第14回】<ヒューマン・エラー>(スリップとミステイク) 学習・脳領域テスト

【第15回】3領域に関する全体ディスカッション および まとめ

【テキスト】

「心理学概論」監修：山内弘継・橋本宰 ナカニシヤ出版

【参考書等】

必要に応じて随時資料を配布する

【成績評価の方法】

成績は授業期間中に行われる基本的語彙知識を問う3回の各領域テスト(各20点満点), まとめに行われる発展課題テスト(30点満点)およびMoodle上での提出課題の成績(10点)による。

【履修上の注意】

Moodle上で課題を出題するので, Moodleの使用方法を理解しておく事。